

教科目標

臨床工学技士科

1. 養成目的

患者様の命を守るために現場で必須となる基礎知識を身に付け、チーム医療に尽力できる臨床工学技士を養成する。

2. 教育目標

国家試験の合格を果たし、チーム医療に貢献するためのソーシャルスキルを身に付ける。

3. カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 (総単位数)
モチベーション プログラム	基礎分野	物理学 / 化学 / 医用数学 / キャリア教育ⅠⅡⅢ / 医学英語	300 (20)
ミッション プログラム	専門基礎分野	人の構造と機能 / 臨床医学総論 / 病理学 / 臨床生理学 / 公衆衛生学 電磁気学 / 電気工学Ⅰ / 電気工学Ⅱ-A Ⅱ-B / 電子工学Ⅰ 電子工学Ⅱ-A Ⅱ-B / 電気電子工学実習 / 電気電子工学Ⅰ 電気電子工学Ⅱ-A Ⅱ-B / 計測工学 / システム・情報処理工学Ⅰ システム・情報処理工学Ⅱ-A Ⅱ-B / システム・情報処理工学実習	840 (53)
プロフェッショナル プログラム	専門分野	機械工学Ⅰ / 機械工学Ⅱ-A Ⅱ-B / 生体物性工学 / 材料工学 / 医用治療機器学 生体計測装置学 / 医用治療機器学実習 / 生体計測装置学実習 カテーテルデバイス総論 / 内視鏡装置総論 / 生体機能代行技術学Ⅰ(呼吸) 生体機能代行技術学実習Ⅰ(呼吸) / 生体機能代行技術学Ⅱ(循環) 生体機能代行技術学実習Ⅱ(循環) / 生体機能代行技術学Ⅲ(代謝) 生体機能代行技術学実習Ⅲ(代謝) / 医療安全管理学ⅠⅡⅢ 医療安全管理学実習 / 臨床医学各論 / 関係法規 / 臨床技術総論 臨床工学特論 / 臨床実習前教育 / 臨床実習後教育 / 臨床実習	1095 (59)
	選択必修分野	臨床工学技士総合演習Ⅰ(呼吸) / 臨床工学技士総合演習Ⅱ(循環) 臨床工学技士総合演習Ⅲ(代謝) / 臨床工学技士総合演習Ⅳ(基礎医学) 臨床工学技士総合演習Ⅴ(生体計測装置学) 臨床工学技士総合演習Ⅵ(医療治療機器学) 臨床工学技士総合演習Ⅶ(物性材料) / 臨床工学技士総合演習Ⅷ(情報)-A 臨床工学技士総合演習Ⅷ(情報)-B / 臨床工学技士総合演習Ⅸ(総合)-A 臨床工学技士総合演習Ⅸ(総合)-B / ME2種総合演習Ⅰ(工学)-A ME2種総合演習Ⅰ(工学)-B / ME2種総合演習Ⅱ(医学) ME2種総合演習Ⅲ(総合) / 導入教育ⅠⅡⅢ / 業界研究 / 国際教育	600 (40)
合計			2835 (172)

※卒業・進級に必要な授業時間数 1年次 810時間(52単位) / 2年次 885時間(51単位) / 3年次 840時間(49単位)

4. 学年（学期）目標

学年	到達目標
1年 (前期)	医学と工学の基礎知識を身に付け、チーム医療における臨床工学技士の役割について理解する。またクラス内において相互支援的な関係を築き、学習環境を整える。
1年 (後期)	臨床工学技士の働き方や病院業界を知り、見学実習に向けての準備をして病院にてリアルを知る。
2年 (前期)	臨床工学技士に必要な態度・知識・技術を身に付けることにより、将来像を明確にする。また、第2種ME技術実力検定に合格する。
2年 (後期)	専門知識を身に付け、医療業界をリサーチして将来の『臨床工学士 理想像』を作り、卒業に向けての準備をする。
3年 (前期)	臨床実習や、より実践的な授業で臨床工学技士としての自覚と責任を養うとともに、論理的思考能力を身に付ける。
3年 (後期)	相互支援的環境のもと、臨床工学技士国家試験にチャレンジすることで、自主的な組織運営力を養う。

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
臨床工学技士	必修	厚生労働省	養成施設卒業（卒業見込）、 国家試験受験
第2種ME技術実力検定	必修	(社)日本生体医工学会	筆記試験

6. 就職分野

就職分野	職種	核能力
大学病院、公立病院、民間病院、医院	臨床工学技士	コミュニケーション能力 生体機能代行技術学 医用機器安全管理学